

大阪府文化振興計画の策定について

中間答申（案）

平成24(2012)年9月10日

大阪府文化振興会議

はじめに

- 大阪府では、厳しい財政状況のもと大阪の文化を創造的に飛躍させるため、行政の役割をはじめとする大阪の文化振興のあり方を改めて整理し、平成22年3月に「大阪文化振興新戦略（第2次大阪府文化振興計画）」（計画期間：平成22年度～平成24年度）を策定した。
- 本計画では、文化の主役である府民の創造性が発揮され、自主的な文化活動が活発に行われること、また、文化資源や都市空間など豊かな文化的土壌をもつ大阪のポテンシャルを活かし、文化の力を大阪の活力につなげることなどを目指しており、本計画に沿った取組みが進められている。
- このような中、昨年12月に大阪府市統合本部が設置され、本年2月には、大阪府市都市魅力戦略会議において文化、国際交流、観光、スポーツを含めた都市魅力創造について議論がなされ、6月に報告書が取りまとめられたところである。
- 本報告書において、文化施策については、府市共通の基本ビジョンの設定、事業の融合・統合・連携、アーツカウンシルなどの仕組みづくりが盛り込まれており、大阪府では、戦略本部会議において本報告書をもとに戦略の策定や施策化を図ることとされている。
- 大阪府文化振興会議における審議において、次期の大阪府文化振興計画策定にあたっては、文化の主役は府民・市民であり、行政はサポート役であること、府市で共通の基本ビジョンを持つこと、現行計画の理念を継承・発展させることが必要であることなど、現時点で確認された大きな方向性について中間答申として示すこととする。

次期計画の理念 ―府市共通の基本ビジョン―

- 次期計画における基本的な考え方としては、現行の計画の基本的理念である、文化の主役は府民・市民であり、行政は府民・市民の「自立と創意」が最大限に発揮されるよう、自主的な活動をサポートすること、とすべきである。
- 現行の大阪府文化振興計画においては、「社会を支える文化」「都市全体に開かれた文化」「攻める文化」「アーティストがめざす文化」の4つの理念が掲げられており、次期計画においては、これらの理念を基本的に継承し、さらに発展すべきである。
- 今後、大阪全体の活力につながるよう文化施策の展開を図るためには、府市の文化振興の計画においては、府市共通の基本ビジョンを設定すべきと考える。また、大阪府文化振興計画においては、大阪府は、広域的な視点から行うべき都市文化政策や、文化の創造・活動基盤の整備、市町村や民間に対する情報提供やコーディネートなどの役割を担うこととすべきである。
- 文化の主役である民間の活動を活発にし、大阪にふさわしい文化行政の展開が図られるようアーツカウンシルなどの新たな文化振興の仕組みづくりを検討すべきである。

次期計画における取り組み

文化の主役は府民・市民であり、行政はサポート役という考え方をより徹底し、府市連携により、民間の文化活動を活発にすることで、文化の力を大阪の都市魅力に一層つなげることが大切であり、以下のような取り組みについて、次期計画において示すべきである。

○アーツカウンシルの設置

多くのアーティスト等の意見が反映され、大阪にふさわしい文化振興を図るため、府市統合本部に置ける議論を踏まえ、専門家による評価・企画・調査等を行うアーツカウンシルの仕組みを平成25年度を目途に立ち上げる。

○府市文化施策の再構築

府市の事業の融合・統合・連携により、さらなるパワーアップを目指した新たな施策展開を図るとともに、今年度においても先行的に事業融合を図る。（実施例：大阪クラシックと府庁本館本活用事業）

○文化振興の評価指標の設定

イメージや主観的な観点からの評価指標ではなく、文化振興のプロセスや都市魅力につながる事が分かるような実態、経験等に基づく指標など、できる限り客観的な計測等が可能な評価指標を設定する。

○持続可能な文化振興の仕組みづくり

文化振興が、経済や都市自体の活力につながり、府民・市民や社会が資金面でも文化を支え、文化活動が自立的に発展できる仕組みについても検討する。